

広島路面電車

広島は、日本で路面電車が公共交通ネットワークの重要な一部を担っているいくつかの都市のうちの 1 つです。広島電鉄株式会社は、地元住民には広電の名で親しまれており、1912 年から広島路面電車を運行しています。日本に今も残っている路面電車運行会社の 1 つとして、広電は国内で最長距離のネットワーク、35km 以上の線路でサービスを運行しています。

1945 年の原爆のたった 3 日後に運行を再開したということで有名なこの路面電車は、広島市の誇りです。更に、原爆を生き延びた車両 2 台が今も走っていて、その丈夫なデザインと広島市の強さの証になっています。

広電は、古い車両を、新しいものと入れ替えるのではなく、必要に応じて修理しアップグレードしながら走らせることをポリシーとしています。世界中の他の都市で路面電車のネットワークが廃業すると、広電は古い車両を購入してそれらを走らせ、広島に 26 種類もの車両からなる車隊を作って“走る路面電車博物館”というニックネームを獲得しました。ちょっとした市内の移動が、京都や大阪の歴史的な路面電車や、遠くはドイツから来たモダンな車両に乗る機会を与えてくれるかもしれません。現在も走っている最も古い車両は、第二次世界大戦以前に作られた神戸の路面電車で、582 形というものです。

6 月 10 日に一番近い週末に、広電は毎年一度の「広電路面電車まつり」を、本社傍の路面電車車庫で開催しています。このイベントは、毎年 15,000 人の来訪者を集め、路面電車愛好家にとっては様々な車両を間近に見ることができ、整備場や修理工場をツアーしたり、古い路面電車のパーツや思い出の品を買ったりできるチャンスです。古いライセンスプレートや標識を手に入れるために何時間も列をつくるコレクターもいます。食べ物の露店もたくさん出て、子供達は小型のレプリカ路面電車に乗れるほか、写生コンテストやステージのショーも楽しめます。